

発達障害児 特性伸ばす場

高い集中力や独創的発想

尼崎市御園町の民間会社が、発達障害児のある子供たちを対象に、コンピュータープログラミングなどパソコン技術を学べる教室を始めた。発達障害者は対人関係が苦手な反面、高い集中力や独創的な発想を持つ場合があり、プログラマーに高い適性を持つ人もいるという。幼少期から特性を伸ばし、雇用の可能性をひけるのが狙いだ。

(松田俊輔)

教室は4月から阪神尼崎駅前のビル1室で開かれ、発達障害者の就労支援などに取り組む会社「OMOI YARI PLUS ONE」が運営。講師はプロのシステムエンジニアが務め、4コースに6人が通う。「ロボット制作コース」では、市販の教材用ロボットを使い、パソコン上でロボットの動く方向や速度を指示するプログラムの作



講師からコンピュータープログラミングについて説明を受ける子供たち（尼崎市で）

り方を学ぶ。「ホームページ作成コース」は、フォトショップなど画像加工ソフト

の使い方を学習。「ゲーム開発コース」では、障害物やモンスターなどを配置するアクションゲーム作りなどを教わる。

文部科学省の有識者会議は今年、小学校でのプログラミング授業の検討を開始。習い事の一種で同様の

発達障害 先天的な脳機能障害が原因とされる。症状は様々で、対人関係が苦手だったり、感情をコントロールできなかつた多動性障害（ADHD）、学習障害（LD）などが含まれる。

尼崎の企業がパソコン教室

教室が注目を集めているが、発達障害児向けは珍しいという。同社の住山健社長（26）は「スマホアプリ開発やドローンの制御など、パソコン技術が求められる職業は今後、確実に増える。自宅で仕事ができる場合もあり、ニーズに合っている」と話す。

厚生労働省の障害者職業紹介状況調査では、発達障害や高次脳機能障害などのある人たちの2015年度就職件数は3834件で、10年前の2229件より大きく増えた。兵庫障害者職業センター（神戸市灘区）によると、パソコンを使った職業に就く発達障害者も近年、増加傾向にある。

同センターの小日向毅所長は「人と関わる頻度が少なくなくて済む一方、企業側も仕事をマニュアル化しやすいなどメリットがある。この分野の需要は伸びていくのでは」とみている。